

改めて東京株式市場の可能性を探る

日本経済新聞ヴェリタス編集部編集委員
前田昌孝

- *ラオスの若者に証券市場を語る
- *年明けから波乱含みの世界経済
- *企業業績の割に冴えない株価
- *株価が上昇し続けるドイツとの落差は何か
- *増え続けるイギリスのISA
- *30年単位で日本株投資を考える
- *長期投資で報われるアメリカ株
- *大きい日米間のROE格差
- *日本企業の経営力を高める動きが始動
- *兆しが出てきた前向きな好循環



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、1年ちょっとぶりになります。前田先生においでいただきました。1年前と比べますと、株価も上がっているとはとても言えない状況でございますが、先行きを含めて、証券市場をきちんと見てお話のできる方というのは最近だんだん減ってきております。その意味で、前田先生はたいへん貴重な存在だというふうに思っております。

7月というのは、そういう意味では株式市場を見るタイミングとしても悪くはないのではないかと思います。先の展望も含めまして今日はじっくりお話を伺いたいと思います。よろしくお願いたします。（拍手）

前田 昌孝
前田 ご紹介いただきました前田昌孝でござ

います。

いつもお招きいただきまして、本当にありがとうございます。また、日ごろ日本経済新聞と『日経ヴェリタス』と、それから日経の電子版をご愛読いただきまして、本当にありがとうございます。

私、先週、ラオスに1週間行ってまいりましたが、何か取材をしてくるというようなことではなくて、国際協力機構（JICA）とラオス国立大学が共同でラオスの若い社会人向けにMBAプログラムをつくってしまして、そこで証券市場とは何か、どういうものなのかというようなことを5日間教えるという仕事をして来ました。MBAプログラムに参加していた社会人は25人ぐらいなんですが、私の教えた証券市